

# 京都教育大学FDニュース

No.64

2012年12月12日

FD委員会

\*\*\*\*\*

## 2012年度第1回FD研修会について

今年度第1回目のFD研修会が11月14日に開催されました。講師は、FD委員の内田利広先生です。「学部授業アンケート結果報告会——教職科目群における比較検討を通して——」というテーマでご発表いただきました。具体的には、2011年度後期の学部授業アンケート結果をもとに、授業科目群ごとの傾向の検討が行われました。後期のアンケート結果を取り上げたのは、現在おこなわれている後期の授業科目の改善に生かすことができるのではないかと考えられたからです。



報告では、まず、「調査の概要」と「結果の概要」が説明されました。各調査項目ごとの結果は、例年とほぼ同様に、「とても思う」「やや思う」という肯定的な回答の割合が比較的多くなっています。ただし、「Q4. 授業時間外の学習時間（この授業一回分の予習、復習、レポート、課題等に取り組むため、平均してどの位の時間を費やしましたか）」については、「1時間未満」「ほとんどしない」という回答がおよそ6割にのぼること、また「Q16. 過去のアンケート結果を閲覧しているか」という調査項目については、9割近くが「あまり閲覧していない」という結果が指摘されました。これらも、例年と同様の傾向にあります。

次に、「科目分類から見たアンケート結果」が報告されました。分散分析を通して、科目群ごとに比較してみると、以下のような特徴が浮かび上がってきました。

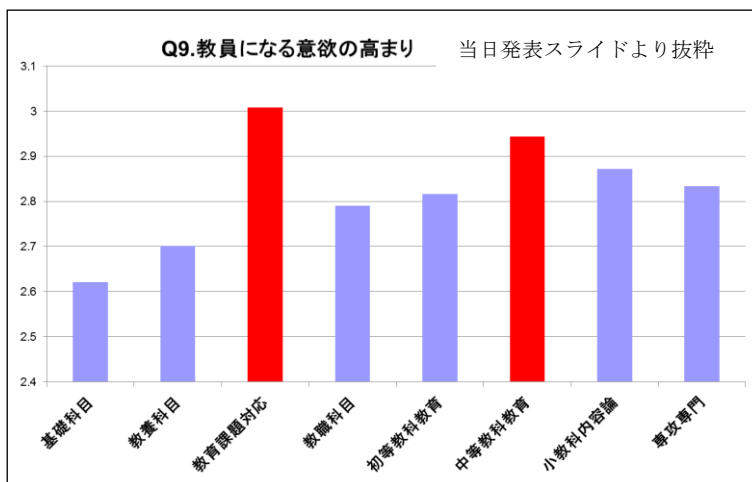
基礎科目	学生の反応や理解に沿った授業。	
教養科目	シラバスを参考、授業への意欲や満足度は低い。	
教育課題対応科目	出席や学習時間は高い。「テーマへの興味」「教員への意欲の高まり」は高い。	
教職科目	「意欲的な取り組み」「評価する資格」は低い。学生の反応や理解に沿った授業であると感じている。	
初等教科教育	授業が体系的に感じられず、わかりにくい。満足度も高くない。	難易度、テキストのレベル、進度とも高い。「テーマへの興味」「教員への意欲の高まり」も高い。
中等教科教育		
小学校教科内容論	「出席」「意欲的な取り組み」「まとまりやわかりやすさ」は高い。「学生の反応や理解に沿った授業」は少し低い。	
専攻専門科目	シラバスを参考にしている。テーマへの興味は高い。難易度、テキストのレベルが高いと感じている。	

その後、「教育課題対応科目」のなかの「公立学校等訪問研究」について焦点をあてて、専攻ごとの結果の傾向について報告がありました。意欲的に取り組んでいるところや、わかりやすさの高いところなどを参考に、今後の取り組みに生かしていくことができればよいのではないかと指摘されました。

「まとめ」としては、FDアンケート結果を科目群や専攻ごとに比べていると、「相対的に高い項目、低い項目がある」ため、「他の科目や専攻の取り組み（内容や教授法）から、参考になる点、取り入れられる点を見つけて活用してみる」ことの重要性が提起されました。

その後の質疑応答では、①授業時間外の学習時間をどの程度おこなうことが必要と考えるか、またその質をいかに高めていくか、

②「意欲の高まり」に影響を及ぼす要因がわかれば参考になるのではないかと、③受講生数や授業形式による違いを見ていくとよいのではないかと、④学年による違いや、学生たちの思考の深まりといった内容面に踏み込んだ検討ができるとよいのではないかと、⑤小学校教科内容論の結果は、教職と教科内容をつなぐ役割が果たしているということではないかと、などの意見が出されました。



\*\*\*

研修会についての事後アンケートでは、「実感していたことに近い数値」や「担当の専攻の傾向」を知ることができたので、「担当科目に照らして参考にしたい」という意見がありました。そのほかに、「各項目の平均だけでなく、回答分布がわかると面白い」、「ただ授業をまじめに熱心に受講しているかどうかだけでなく、結果としてどのような力がついたのか（つくど学生が思っているのか）を知ることができたら」、「アンケート項目のよりも、自由記述の感想の方が参考になる」、「もっと厳しい評価が出るようなアンケート項目があってもよいかも」、「『宿題を出す科目』は少し考えてほしい部分もある。内職が多い」、「学生に知的刺激や学問の楽しさを（将来、教員として児童・生徒に与えるであろうもの）大学でもどのように伝えていくかの戦略が必要だと思われる」などの意見がありました。

当日の研修会の様子をビデオに記録しています。ご覧になりたい方は教務課までご連絡ください。

\*\*\*\*\*

## 2012 年度前期 の学部FDアンケート集計結果について

教育学部講義の授業アンケート（2012 年度前期）の実施にご協力いただき、ありがとうございます。調査の概要と結果を報告します。

### 1. 調査の概要

- 実施期間：2012 年 7 月 17 日（火）～27 日（金）
- 対象科目数：399
- 実施科目数：351（実施率 88.0 %）
- 実施科目の履修者数：12,700 名
- 回答者数：10,185 名（回収率 80.2%）

次ページの図をもとに、過去 3 年間の推移をみると、実施率はほぼ 85%を超えています。今年度は祝日の関係もあり月曜日の授業では一回しか実施期間がなかったのですが 88%の実施率となり、回収率は 80%を超えました。

## 2. 結果の概要

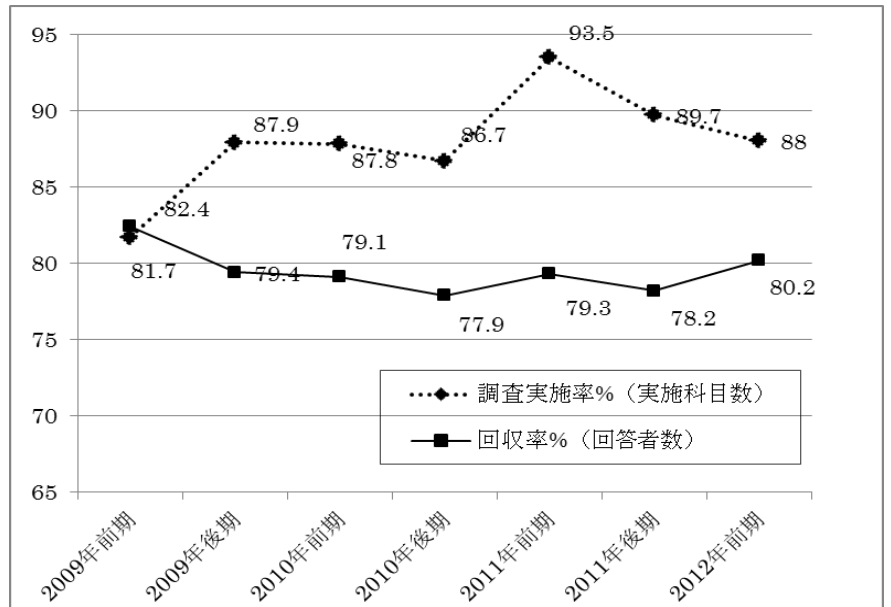
### (1) 項目別の回答分布一覧

#### ■ Q1 受講動機

(複数回答N=11023を100%に換算)

受講動機は、例年と同様に「必修だから」が最も多く半数を超え、続いて「興味関心」を理由に受講したという回答が3割となっています。

(右下図)

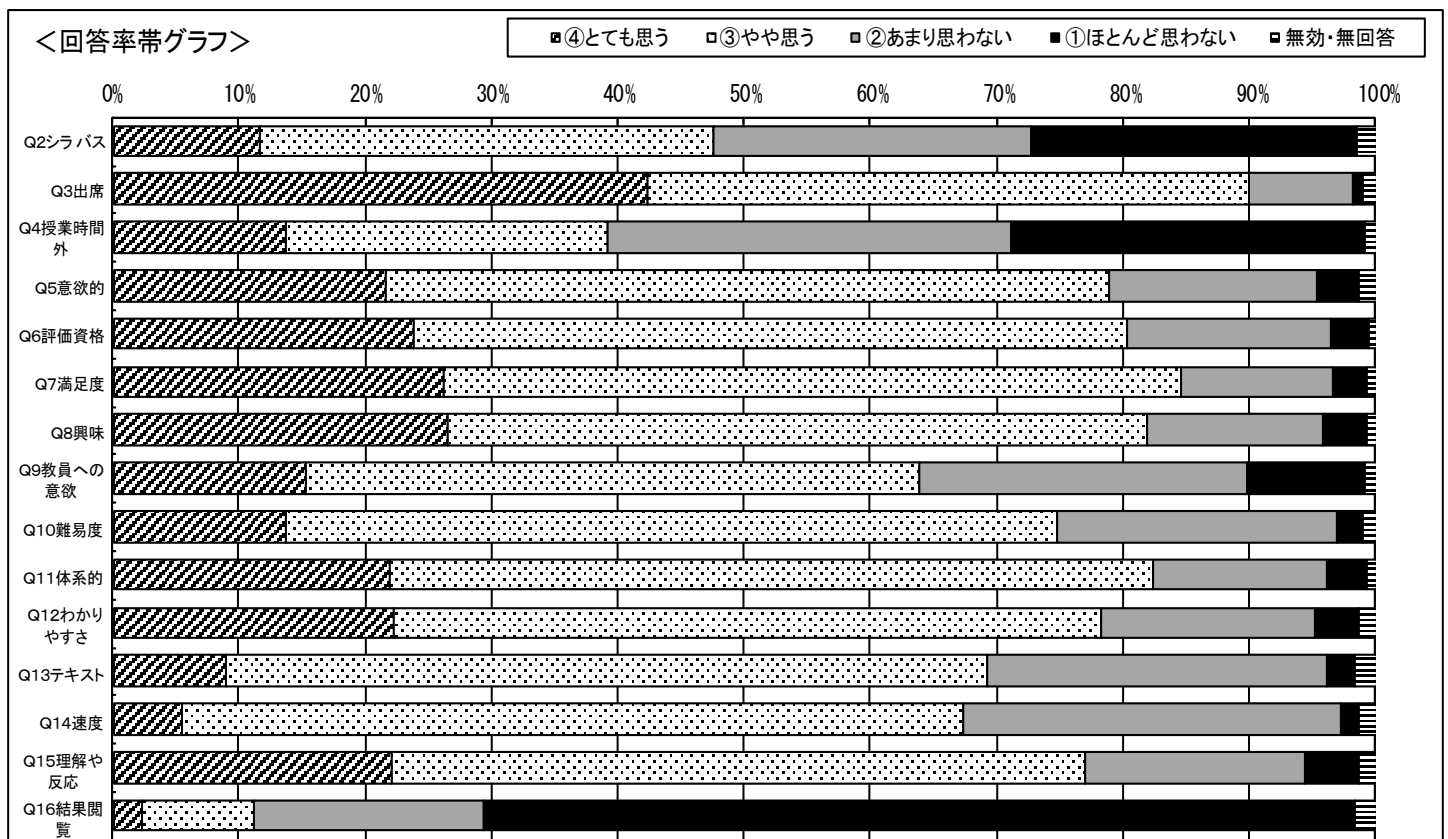
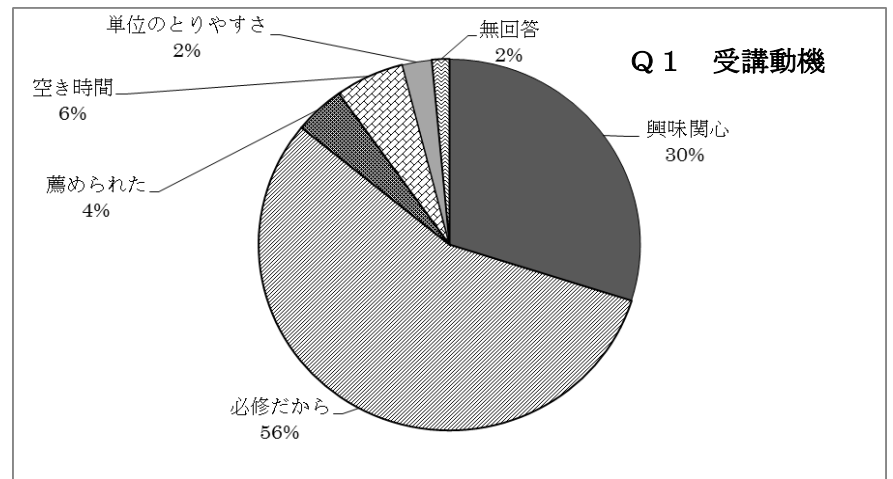


#### ■ Q2～16

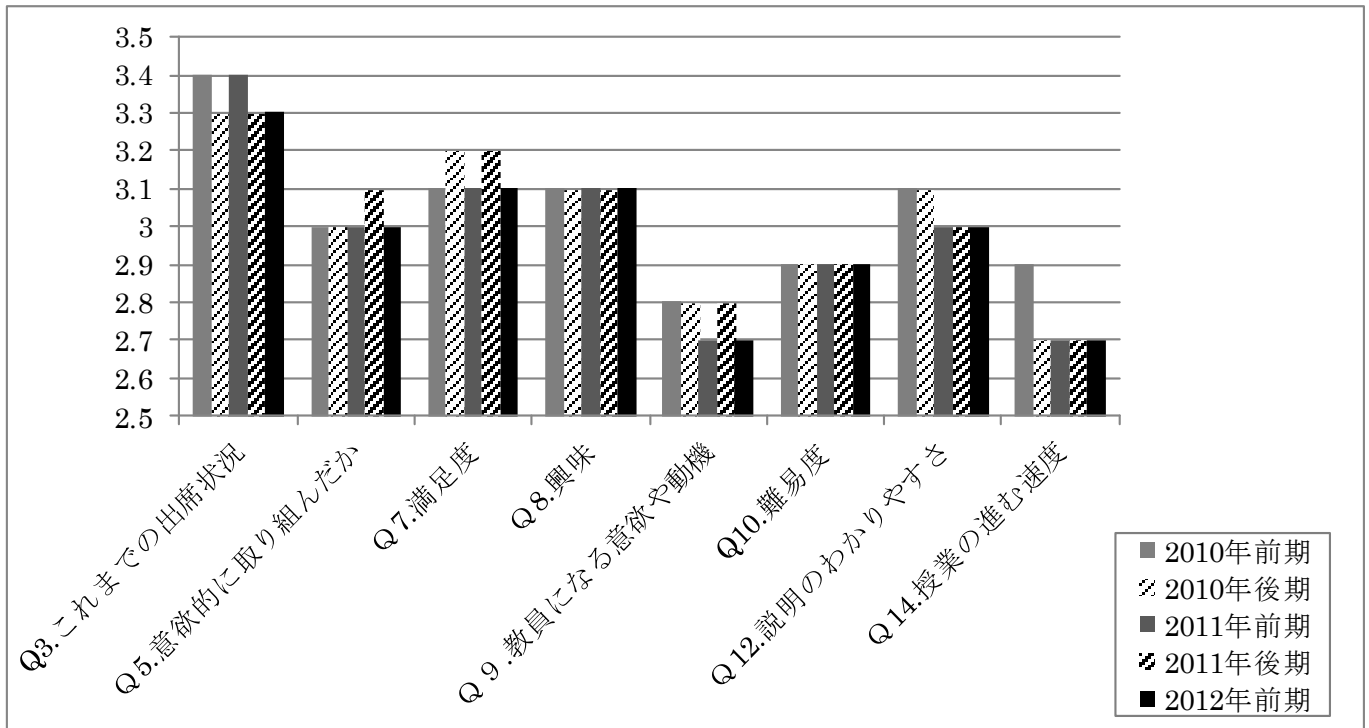
Q1以外の項目を見てみると、2011年度後期と同様に、「Q4. 授業時間外の学習」について、「1時間未満」「ほとんどしない」という回答者の割合が60%に上っています。

また、「Q9. 教員になる意欲や動機は高まりましたか」については、「あまり思わない」「ほとんど思わない」が35%となっています。

(下図)



(2) 過年度と同一項目の平均の比較



昨年度以前から継続して実施している項目について、その平均値を比較したのが上記の棒グラフです。それほど大きな変化はありませんが、「Q 7. 満足度」「Q 9. 教員になる意欲や動機の高まり」については、後期に比べて前期がやや低い傾向にあることも見て取れるように思われます。

先日のFD研修会のアンケートでは、『満足度』『教員になる意欲の高まり』で評価の高い授業の工夫があれば紹介してほしい、「教員になるための意識を育てる内容を全科目のなかに取り入れることができないかを考えています」などの意見をいただいています。教員養成大学におけるFDのあり方について、今後もひきつづき考えていきたいと思えます。

\*\*\*\*\*

FD委員会では、後期も授業アンケートの実施のほか、研修会を予定しています。今後ともご協力くださいますよう、お願いいたします。

**次回のFD研修会のお知らせ**

日時：12月19日（水）13:30～

場所：大会議室

講師：沖 裕貴 氏（立命館大学教授）

テーマ：3つのポリシーに基づく内部質保証システムの構築

アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの考え方と構築の方法、さらにはシラバスの到達目標の書き方や成績評価の考え方についてお話しいたします。

\*\*\*\*\*

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：安東（委員長）、山口（副委員長）、村田、内田、樋口  
事務担当：高松、相原、大谷